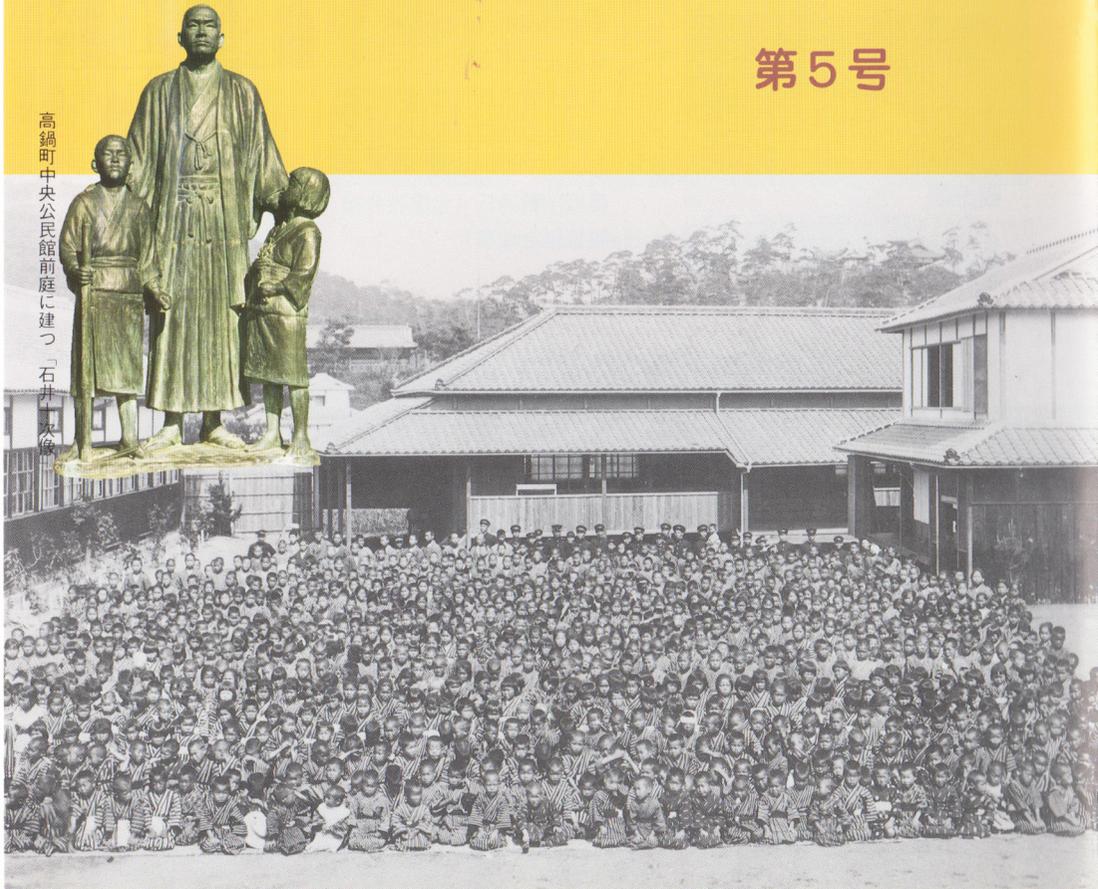


石井十次顕彰会だより

第5号

高鍋町中央公民館前庭に建つ「石井十次像」



財団法人 石井十次顕彰会

石井十次顕彰会事業内容に「福祉施設へ賛助金贈呈」という項目があり今年は、次の施設へ贈られた。

毎年石井十次生誕記念式場に於て石井十次小伝が、高鍋町内及び木城町、西都市一部の各小学校5年生全員に贈呈される。



ヤングコアたかしん(高信杉の子会)会長税田格十氏は平成7年10月開催、チャリティバザーの益金、(ふるさと高鍋まつり時)を当会へ寄附贈呈された。



石井十次顕彰会より賛助金贈呈
宮崎市あしたば通所福祉作業所「あしたば」の岡崎猛断所長へ顕彰会柿原理事より賛助金が贈呈される。
↓(作業の様子)



募金者報告 第五号

平成六年十二月二十五日
平成八年二月四日

篤志寄附

高鍋町

高鍋信用金庫様
小丸下自治公民館有志様
有限会社 寿石油様
立正佼成会高鍋教会教会长 久保勝代様
株式会社 増田工務店様
尾崎 敏弘様
尾崎 一男様
黒田千穂子様
有限会社 サーフショップ 小野智治様
合資会社 黒木本店様
松島 忠雄様
ヤングコアたかしん(高信杉の子会) 会長 税田格十様

宮崎市

藤間亀舟会会長 本庄チエ様
山口 静雄様
横山能理子様
印刷センタークロダ様
株式会社 大興不動産様
宮崎県演劇協会会長 矢野 一誠様
竹本 孫一様

忌明寄附

高鍋町

井上 武子様
箕毛 明子様
尾崎 哲子様
尾崎 伸江様
松田 静代様
押川 一美様

このたびは、多額のご寄附をいただき誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

あとがき

「平和であるい生活」の願いも空しく、平成七年は阪神大震災をはじめ、暗い出来ごとの多い一年でした。罹災者の方々へ心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。
「石井十次顕彰会だより」第五号をお届けいたします。どうぞご覧ください。

発行者：石井十次顕彰会
題字：宮崎県知事 松形祐堯
印刷：(南)印刷センタークロダ
発行日：平成8年2月28日



社会福祉法人、愛育社へ贈呈
 平成七年四月十日石井十次生誕
 記念式典当日に正賞「楯」と副賞
 が贈られた。



第四回石井十次賞として、大阪府堺市八田南之町、社会福祉法人愛育社（理事長井上ナオミ氏）が満場一致で決まったことを報告される。「石井十次賞」選考委員板山賢治氏（全国社会福祉協議会理事）



「石井十次賞」贈呈式
 町民多数のご参加のもと、第4回石井十次賞贈呈式が、高鍋町中央公民館にて盛大に行われた。



石井十次顕彰会理事長尾崎一男より第4回受賞者・社会福祉法人愛育社理事長井上ナオミ氏へ正賞・副賞が手渡された。

石井十次賞選考委員会

— 東京都麹町会館にて —



「石井十次賞」
 正賞の楯

（石井十次の
 ブロンズ像と
 茶臼原憲法）



真剣な討議の続く審査風景



明治8年に創設され、
 以後4代にわたって引
 継がれている愛育社
 【昭和44年移転改築】



桜並木の下に恵まれた遊具施設



職員と子供との心を通じ情緒豊かな人間性を育てる

要な条件である高校進学に力を入れ、八三パーセントを超える生徒たちを、高校へ進学させている。

愛育社は創設以来「援護育成・更正指導を要する児童に対し、独立心をそこなうことなく社会人として生活できること」を目的にし、小教定員で家族的処遇を重視、二代目政友氏、三代目石夫氏、更に現在のナオミ理事長と一貫して児童養護施設として運営してきた。この間、二二〇〇人を超える子供を世の中に送り出しており、昭和十一年堺市の仁徳御陵近くに移転したのを機会に同窓会「みささぎ会」を結成し、毎年正月には家族連れで同窓会を開いており、参加者は毎回八十人を超えている。

昭和五十年からは、社会人として自立するための重



受賞者
 社会福祉法人 愛育社 理事長
 井上 ナオミ 氏



顕彰意見発表

平成七年四月十日の石井十次生誕記念式典に於いて、高鍋町内の小学校、中学校、高等学校の児童生徒の代表の皆さんが「石井十次先生の顕彰意見発表」をされたものです。
高鍋町内に小学校・中学校・高等学校各二校があり隔年毎に交代で行われております。



高鍋西小学校
五年
黒田 絵梨

■思いやりのある心を持って

石井十次先生、私は小学校に入るまで、先生のことを、全く知りませんでした。

一年生の時に、たんにんの先生から、十次先生のお話を聞き、恵まれない子ども達のために、自分の一生をささげた、立派な人だということを知りました。

それに、医者になりたいという、自分の夢をあきらめて、三千人もの孤児を育てたと聞いたときには、本当におどろきました。

私は朝の会で、「石井十次」を歌ったり、毎年行われる、「石井十次先生を偲ぶ会」に参加して、六年生のげきを見るたびに、とても感動してしまいます。今年、「なわの帯」のげきを見ましたが、祭りの日に、一人だけなわの帯をしめていた友達のことを、かわい

そうに思って、自分のつむぎの帯と取りかえてあげた。十次先生は、その時まで七才だったのですね。私とも同じ立場だったらどうして良かったかなあ、と考えました。

はすかしいけれど、きっと十次先生と同じ態度はとれなかったと思います。友達の話は、とてもかわいそうです。でもそんなふうに思うだけで、帯をこうかんとあげることまでは、できなかったでしょう。だから、小さいころから、そんなやさしい心の十次先生を、私はとてもそんけいしているのです。

でも、十次先生が、今いらっちゃったら、テレビのニュースなどで放送されている、いじめのことをとても悲しく思われることでしょう。

私も、自分と同じくらいの小学生や中学生が、いじめにあったり、友達をいじめているというニュースを見ると、とてもつらく悲しくなります。

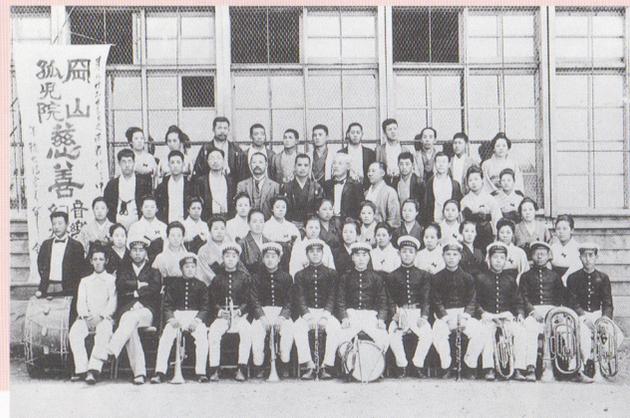
私たちの学校では、男子も女子もよく仲良しで、昼休みになると、一人ぼっちでいる人にも必ず声をかけて、みんなで、ドッジボールなどをして、元気に遊んでいます。男子も女子には、ボールをやさしく投げてください。取ったボールを回してくれたりして、皆が楽しく遊べるようにしてくれます。授業中に、分からない人がいたりこまっている人がいると、必ず周りの人が、教えてあげたり、助けてあげたりしています。だから、みんな毎日学校がとても楽しいのです。

それでも、小さなけんかは、時々あって、先生に申しわけたりしますが、友達をいじめたりする人はいません。それで、みんなが、十次先生のような、やさしい人を目指しているからです。



第3回「石井十次賞」受賞者松島正儀氏が、東京都名誉都民となりました。
(平成7年10月1日)

十次が明治31年編成し、日本各地、米国や台湾など海外にまで乗り出し、孤児救済への援助を訴えた慈善事業音楽幻灯隊。
(民間としては最初のプラスバンドと言われている。)



日本中の友達、十次先生の心を知り、人を思いやるやさしい心を持ってくれたら、いじめはなくなると思います。

私たちも、今まで以上に、十次先生のように、だれに対しても、広い心でおもいやりを持って接していきたいと思えます。



高鍋西中学校
三年
又川 恵子

■私が石井十次先生に学んだこと

「松ちゃん、僕の帯と換えてあげるよ。」

私が初めてこの言葉を知ったのは小学校一年のときでした。これは、天神様の祭りで縄の帯をしていたため、仲間はずれにされていた友達と、自分のつむぎの帯とを交換してあげたという、十次先生が幼い時の有名なエピソードです。

母が自分のために織ってくれたつむぎの帯を、おしげもなく換えてあげる優しさにとっても感動したものを覚えています。

もし、私だったら……と考えてみると、やはりそんな大きな優しさも勇気もありませんでした。一緒になって仲間はずれにするまではいかなくても、見て見ぬふりをしてしまったのかもしいないと思いました。でも、それはあくまでもそれ以前の考えで、今は小



宮崎県立高鍋高等学校

二年

金丸 由加理

■石井十次について

石井十次は「孤児の父」としてその偉業が称えられています。しかしその一生は厳しいものであったと思います。なぜ十次は孤児教育に生涯をかけたのでしょうか。今日はこのことについて考えてみたいと思います。

十次は二十四才の時、重大な選択をせまられています。医学の道と孤児救済のどちらを歩むかということです。この二つの事を両立させていくのは不可能でした。彼はクリスチャンでもあったので聖書の影響もつけています。

聖書には、「人は主を仕えることは出来ない。」とあるのです。この時彼は、すでに多くの者が志す医学よりも、志す者の少ない孤児救済の道を選びました。彼は自分が今、何をなさなければならぬかということをはっきり自覚したのです。

その後貧しく苦しい生活が長く続くのですが、そんな中でも、彼は災害などで苦しむ多くの孤児を救うために、日本中を駆けまわっています。このようなことから、彼は弱い者、困っている者をほおっておけない思いやりの心と、自ら心に決めたことは一貫してことんやりぬく強い意志を持っていたことがわかります。しかし、この「思いやりの心」と「強い意志」は、

最近の私たちには欠けつつあるのではないのでしょうか。石井十次の故郷であるこの高鍋では、そのような事があってはなりません。私達は石井十次を誇りとし、また鏡として生きていかねばならないと思います。

「茶臼原憲法」というのがあります。彼が茶臼原で孤児教育を始めたときにできた憲法です。これに石井十次の精神が現れていると思います。

人間は全て同胞で、お互いに信じ合い助け合おう。人間は皆、大自然の恩恵のもとにいつも仕事に精出すこと。

人間は皆、天に感謝し、節制を保ち、人のために提供すること。

私の学んでいる学校の正門脇に石井十次の詠んだ詩碑があります。これを、朗読して終りにします。

ああ 美なるかな 日向の地

予は実に爾を愛す

ああ 壮なるかな太平洋

予は実に爾を愛す

・・・人間はその境遇によって

教育せらるるものとせば

爾、高鍋よ

爾は予が理想的人物を養成するに於いて

もっとも適当なところなり

ああ 美なるかな尾鈴山

ああ 北なるか太平洋

〔当日は英語で発表されました。〕

学校で六年間、十次先生の残した功績や考え方を学び、自分なりに人に優しく接するようにはしてきました。

私が、十次先生に学んだことは、本当にそれ以外にもたくさんあります。一番心に強く残っているのは、縄の帯の工ピソードですが、その次に感動と同時に驚きを感じたのが、医者道を志していたのに孤児達を救うためにその夢をあきらめたということでした。

はじめのうちは、そんな十次先生の行動が理解できませんでした。どうして、みず知らずの子供のために、大切な医学書を焼いて、医者への道をあきらめることができるのだろうか。しかし、十次先生の考え方はこうでした。医者になって、病気の人を救ってあげるのも大切なことだけれど、それよりも親のない子供達のために、孤児院を開いて、一人でも多くの孤児達を救ってあげたいという事です。

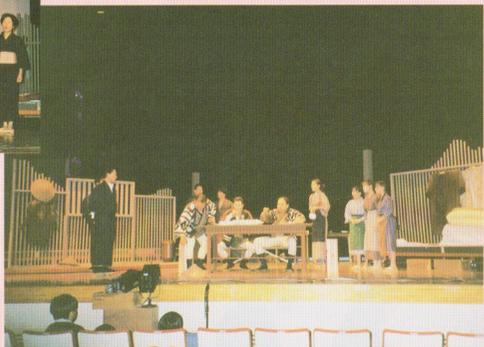
孤児院を設立し、孤児達を育てることは、医者になるよりもずっと大変だったはずだ。

自分の夢より人の手助けをする事、しかも、苦労の多い方を選ばなくて、私には、どうして出来ないという簡単な言葉で終わらせてしまっているのかと思うくらい、すばらしいことだと思えます。私が十次先生に学んだことは、優しさや勇気をもって人に接することでした。そして、これからの私の希望は、石井十次先生のことを、もっとたくさんの方が深く知り、その生き方のすばらしさを学んで欲しいということですが、私自信も、まだまだ知らない事はありますが、いつまでもこの高鍋が生んだ偉人石井十次先生の生き方から、たくさんの方を学んで生きたいとおもっています。

石井十次物語「この美しき目は」演劇



フラウエンコールなでしこコーラスの皆さんも特別出演された。



石井十次物語「この美しき目は」の演劇が宮崎県演劇協会合同により高鍋町中央公民館ホールで、平成八年二月四日、盛大に上演された。

